

- 問1 佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表される弥生時代の文化や社会状況について述べた文として、背景や当時の国際関係を含めて説明したものとして正しいものを選択してください。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。 | 2. 稲作が普及して定住が進んだが、大陸との交流は途絶えており、日本独自の国風文化が形成された。 | 3. 百濟から仏教が伝来し、聖徳太子が大陸の進んだ制度を取り入れるために十七条の憲法を制定した。 | 4. 巨大な前方後円墳が各地に築かれ、ヤマト政権が近畿地方を中心に統一国家としての基盤を固めた。 |
|--|--|--|--|
- 問2 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった | 2. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された | 3. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた | 4. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した |
|--|--|---|--|
- 問3 弥生時代の遺跡から発掘された人骨の中には、石の鏃（やじり）が刺さっていたり、鋭利な刃物によるものと思われる殺傷跡が残っていたりするものが多数見つかっています。このような人骨の発見から、当時の社会状況について推測されることとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 古墳と呼ばれる巨大な墓を造るために、強制的な労働によって多くの犠牲者が出たこと | 2. 狩猟や採集を中心とする生活の中で、獲物を奪い合うための小規模な小競り合いが増えたこと | 3. 青銅器である銅鐸や銅鏡を、死者の権威を示すための副葬品として埋葬し始めたこと | 4. 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと |
|--|---|---|---|
- 問4 福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。 | 2. 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。 | 3. 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。 | 4. 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。 |
|---|---|---|--|
- 問5 弥生時代における金属器の使用について、青銅器と鉄器の使い分けに関する説明として最も適切なものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた | 2. 青銅器は主に調理や貯蔵の容器として用いられ、鉄器は祭礼の装飾品として用いられた | 3. 青銅器は大陸との交易における貨幣として用いられ、鉄器は建築用の釘として用いられた | 4. 青銅器は一部の特権階級の家財として用いられ、鉄器は庶民の狩猟道具として広く普及した |
|---|--|---|--|
- 問6 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。 (2021年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。 | 2. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。 | 3. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。 | 4. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。 |
|--|--|--|---|
- 問7 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった | 2. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した | 3. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された | 4. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた |
|---|---|--|--|
- 問8 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 勾玉 | 2. 石包丁 | 3. 銅鐸 | 4. 銅矛 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問9 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとしていました。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|-------|-------|
| 1. 冊封 | 2. 民間貿易 | 3. 朝貢 | 4. 通商 |
|-------|---------|-------|-------|
- 問10 3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|-------------|------------|
| 1. 『漢書』地理志 | 2. 『隋書』倭国伝 | 3. 『後漢書』東夷伝 | 4. 『魏志』倭人伝 |
|------------|------------|-------------|------------|
- 問11 長崎県杵岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 『漢書』地理志 | 2. 『宋書』倭国伝 | 3. 『魏志』倭人伝 | 4. 『後漢書』東夷伝 |
|------------|------------|------------|-------------|
- 問12 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった | 2. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた | 3. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた | 4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた |
|--|---|------------------------------------|-------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。	吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠集落や有柄細形銅剣などの出土品から、弥生時代の社会構造や大陸とのつながりを示す重要な遺跡です。この時代、稲作の普及により余剰生産物が生まれ、貧富の差や土地を巡る争いが発生しました。その中で誕生した邪馬台国の卑弥呼は、中国の魏と外交を行うことで、大陸の進んだ文化や宝物、そして皇帝からの公認という「権威」を獲得し、国内の小国をまとめようとしていました。古墳の造営や仏教の伝来は後の時代の出来事です。
問2	答え 1 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穰を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問3	答え 4 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと	弥生時代に始まった水田稲作は、安定した収穫を得るために良好な土地の確保や用水路の管理が不可欠でした。これにより、資源をめぐる集落同士の利害対立が生まれ、人骨に残された殺傷跡や頭部のない人骨は、武力を用いた激しい争い（戦い）が日常的に行われていたことを物語っています。縄文時代にはこうした殺傷跡のある人骨は稀であり、生産活動の変化が社会構造を大きく変えたことを示しています。
問4	答え 3 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかづき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化した。
問5	答え 1 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた	弥生時代の大きな特徴は、青銅器と鉄器という性質の異なる二つの金属器が並行して使われていた点にあります。青銅器は脆（もろ）いため、主に祭りや儀式を司るための祭礼具として発展しました。一方、鉄器は硬くて鋭いため、木製農具を加工するための工具や、実際の武器、耕作のための農具として実利的な目的で活用されました。
問6	答え 3 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問7	答え 1 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問8	答え 3 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問9	答え 3 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問10	答え 4 「魏志」倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問11	答え 3 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多く的小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問12	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での交易が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。

- 問1 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---------------------------------------|--|
| 1. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることによって死者の霊を慰める役割を果たした。 | 2. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 | 3. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 | 4. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。 |
|---|---|---------------------------------------|--|
- 問2 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 銅鏡 | 2. 石包丁 | 3. 銅剣 | 4. 銅鐸 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問3 『魏志』倭人伝などの中国の歴史書に記述が見られ、3世紀ごろに争乱が続いていた倭国を治めるため、邪馬台国の女王として共立された人物は誰か。 (2016年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| 1. 神功皇后 | 2. 推古天皇 | 3. 卑弥呼 | 4. 持統天皇 |
|---------|---------|--------|---------|
- 問4 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 縄文時代 | 2. 弥生時代 | 3. 古墳時代 | 4. 奈良時代 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問5 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 竪穴住居 | 2. 高床倉庫 | 3. 前方後円墳 | 4. 環濠集落 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問6 弥生時代に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏に使いを送った政治的な理由として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選択してください。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 律令国家の仕組みを学ぶために、魏の進んだ法制度や官僚機構を日本に導入して中央集権化を図るため。 | 2. 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。 | 3. 日本列島に迫っていた魏の軍事的侵攻を回避するため、多額の貢ぎ物を持参して講和を結ぶため。 | 4. 鉄製農具の使用を全国に普及させるため、魏から大量の鉄資源を安価に輸入する独占的な貿易ルートを確認するため。 |
|--|--|---|--|
- 問7 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。 (2024年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 勾玉 | 2. 石包丁 | 3. 銅矛 | 4. 銅鐸 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問8 邪馬台国の女王である卑弥呼が、当時の中国（魏）に使者を送り、金印や銅鏡を授かった政治的な背景として最も適切なものはどれか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|-------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 中国の強力な王朝との結びつきを示すことで、国内における自らの権威を高めるため | 2. 日本列島を統一するために、魏の軍隊を日本へ招き入れようとしたため | 3. 大陸の先進的な稲作技術を独占し、食料の生産力を飛躍的に向上させるため | 4. 仏教を日本に導入するための経典や仏像を、魏の皇帝に要求するため |
|---|-------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
- 問9 弥生時代における金属器の使用について、青銅器と鉄器の使い分けに関する説明として最も適切なものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 青銅器は大陸との交易における貨幣として用いられ、鉄器は建築用の釘として用いられた | 2. 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた | 3. 青銅器は主に調理や貯蔵の容器として用いられ、鉄器は祭礼の装飾品として用いられた | 4. 青銅器は一部の特権階級の家財として用いられ、鉄器は庶民の狩猟道具として広く普及した |
|---|---|--|--|
- 問10 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。 | 2. 地面を円形や方形に掘り下げて床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。 | 3. 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。 | 4. 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。 |
|---|--|--|--|
- 問11 弥生時代から古墳時代にかけて、収穫道具が「石包丁」から「鉄鎌」へと変化したことに伴い、収穫の方法はどのように変化したか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|---|
| 1. 石の表面で穀を削る方法から、金属の刃で穂を細かく刻む方法へと変化した | 2. 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した | 3. 地中の根を掘り起こす方法から、穂を叩いて実を落とす方法へと変化した | 4. 手作業で一粒ずつ拾う方法から、土器を使って一度に回収する方法へと変化した |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|---|
- 問12 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。 | 2. 稲作の普及により土地や水をめぐむ争いが増え、集落を守るための防衛機能が必要になったため。 | 3. 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所で常に監視を行うため。 | 4. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。 |
|---|---|--|--|
- 問13 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|-------------|----------------|---------------|
| 1. 奴国 — 持統天皇 | 2. 奴国 — 卑弥呼 | 3. 邪馬台国 — 推古天皇 | 4. 邪馬台国 — 卑弥呼 |
|--------------|-------------|----------------|---------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問2	答え 4 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問3	答え 3 卑弥呼	3世紀の邪馬台国において、呪術的な力を用いて国を治めたとされる女王です。中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。推古天皇は飛鳥時代の最初の女帝、持統天皇は飛鳥時代後半の女帝であり、時代が異なります。
問4	答え 2 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭礼具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問5	答え 2 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問6	答え 2 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。	2世紀後半の日本は「倭国大乱」と呼ばれる激しい内乱状態にありました。これを収めるために共立されたのが女王卑弥呼です。彼女が魏に使いを送った主な目的は、中国という当時の東アジアの超大国から「親魏倭王」という称号を授かることで、国内の他の勢力に対し、自分が正当な支配者であることを誇示することにあります。授かった銅鏡などの宝物も、その権威を裏付ける道具として利用されました。なお、律令制度の導入は飛鳥時代以降の課題であり、この時期の目的ではありません。
問7	答え 4 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問8	答え 1 中国の強力な王朝との結びつきを示すことで、国内における自らの権威を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が対立して争っていましたが、卑弥呼はまじない（鬼道）によって国々をまとめました。彼女が魏へ使者を送ったのは、中国という大国の後ろ盾を得ることで、国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性や優位性をアピールする目的があったと考えられています。
問9	答え 2 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた	弥生時代の大きな特徴は、青銅器と鉄器という性質の異なる二つの金属器が並行して使われていた点にあります。青銅器は脆（もろ）いため、主に祭りや儀式を司るための祭礼具として発展しました。一方、鉄器は硬くて鋭いため、木製農具を加工するための工具や、実際の武器、耕作のための農具として実利的な目的で活用されました。
問10	答え 3 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。
問11	答え 2 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した	石包丁は「穂首刈り」に適した道具でしたが、鉄製の鎌が普及すると、稲を根元から切り取る「根刈り」が可能になりました。根刈りは収穫の効率を大幅に高めただけでなく、収穫後の藁（わら）を家畜の飼料や肥料、わら細工などの資材として活用することにもつながりました。
問12	答え 2 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。	弥生時代には稲作が本格化し、蓄えられた食料や、稲作に適した土地・水をめぐる集落間の争い（戦争）が発生するようになりました。吉野ヶ里遺跡で見られる深い堀（環濠）や、高い場所から敵の侵入をいち早く察知するための物見やぐらは、集落を外敵から守るための軍事的な役割を果たしていました。仏教の伝来や中央集権体制の確立は、のちの飛鳥時代以降の出来事です。
問13	答え 4 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。

- 問1 弥生時代に作られた青銅器の一種で、釣鐘のような形をしており、表面に流水紋や当時の狩猟・農耕の様子が描かれていることがある、稲作の祭りなどに使われたとされる遺物を何というか名称を答えなさい。 (2020年 大分県公立入試 類似)
1. 銅鐸 2. 銅鏡 3. 埴輪 4. 勾玉
- 問2 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため 2. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため 3. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため 4. 魏の強力な軍事力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
- 問3 3世紀の日本において、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の北部に位置した「魏」という国に使節を送りました。その際、魏の皇帝から授けられた称号として正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 親魏倭王 2. 征夷大將軍 3. 遣隋使 4. 漢委奴国王
- 問4 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器のうち、銅とスズの合金で作られ、主に豊作を祈るなどの祭祀（祭り）の儀式に用いられた道具の総称を何というか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 青銅器 2. 土器 3. 打製石器 4. 鉄器
- 問5 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
1. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。 2. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。 3. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。 4. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
- 問6 中国の歴史書である『魏志倭人伝』は、日本の古代社会を知る上で非常に重要な史料です。この書物において、日本の「道路」に関する最初の記録が残されている背景を考慮し、当時の社会状況の説明として適切なものはどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)
1. 鑑真が仏教を広めるために日本を訪れた際、僧侶が移動するための専用の道路が全国に整備されたことが記されている。 2. 律令国家の仕組みが整い、地方と都を結ぶために全国規模で「駅制」という道路網が完成した様子が記されている。 3. 卑弥呼が邪馬台国の女王として約30の国を統治しており、当時の日本の様子や交通に関する初期の状況が記されている。 4. 墾田永年私財法によって開墾された土地へ農民が移動するため、政府が初めて本格的な道路建設に着手したことが記されている。
- 問7 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. 「宋書」倭国伝 2. 「隋書」倭国伝 3. 「魏志」倭人伝 4. 「後漢書」東夷伝
- 問8 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた 2. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた 3. 稲を根元から刈り取るために用いられた 4. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた
- 問9 紀元前4世紀頃から稲作が普及し始めた弥生時代において、近畿地方を中心に多く発見されている、釣鐘のような形をした代表的な青銅器の名称は何ですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 埴輪 2. 前方後円墳 3. 銅鐸 4. 勾玉
- 問10 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
1. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。 2. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。 3. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。 4. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。
- 問11 ある博物館の「原始・古代」の展示室にて、3世紀の日本の様子を調査するために注目すべき史料や展示品の説明として、正しいものはどれですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 飛鳥時代の政治状況を示す「古代の戸籍」の断片と、仏教伝来の様子を描いた壁画の模写。 2. 中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述と、邪馬台国の女王が魏の皇帝から授かったとされる多数の銅鏡。 3. 志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印と、当時の北九州の王が後漢へ朝貢したことを示す記述。 4. 日本最古の貨幣とされる富本銭と、大宰府跡から出土した当時の外交官の記録。
- 問12 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 高床倉庫 2. 竪穴住居 3. 環濠集落 4. 高地性集落
- 問13 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 2. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 3. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。 4. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 銅鐸	大陸から伝わった金属器の技術により、弥生時代には青銅器や鉄器が作られるようになりました。銅鐸は近畿地方を中心に分布しており、初期のものは音を鳴らすための楽器のような役割でしたが、次第に大型化し、稲作の豊作を祈る祭祀（祭り）のための道具として用いられるようになったと考えられています。
問2	答え 2 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問3	答え 1 親魏倭王	中国の歴史書である『魏志』倭人伝によると、邪馬台国の卑弥呼は239年に魏へ使節を派遣しました。当時の倭（日本）は多くの小国が争う不安定な状況にありましたが、卑弥呼は強力な魏との外交関係を結ぶことで、「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かり、自らの支配の正当性や権威を高めようとしたと考えられています。
問4	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実用的な道具というよりも、村の祭礼や儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。
問5	答え 3 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問6	答え 3 卑弥呼が邪馬台国の女王として約30の国を統治しており、当時の日本の様子や交通に関する初期の状況が記されている。	日本の道路についての最初の文字記録は、3世紀の『魏志倭人伝』に見られます。この時期は卑弥呼が邪馬台国で約30の国を従えていた時代であり、中国との外交や国内の統治に関連して、当時の日本の様子が記述されました。律令国家による体系的な道路整備（駅制）は7世紀後半から8世紀にかけてのことであり、卑弥呼の時代よりも後の出来事です。
問7	答え 4 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。
問8	答え 4 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけをつづつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問9	答え 3 銅鐸	銅鐸は弥生時代を代表する青銅器の一つです。もともとは音を鳴らす楽器のような道具であったと考えられていますが、時代とともに大型化し、表面に当時の生活（狩猟や稲作）を描いた絵が刻まれるなど、地域の祭りや儀式でシンボルとして使われる道具へと変化しました。
問10	答え 4 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとしていました。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問11	答え 2 中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述と、邪馬台国の女王が魏の皇帝から授かったとされる多数の銅鏡。	3世紀の邪馬台国の時代は、文献史料を中国の『魏志倭人伝』に頼る必要があります。そこには卑弥呼が「魏」の皇帝から鏡などを贈られたことが記されており、考古学の分野で出土する銅鏡との関連が研究されています。選択肢にある「金印」は1世紀、「戸籍」や「富本銭」は7世紀後半以降のものであり、3世紀の状況を示すものではありません。
問12	答え 3 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問13	答え 1 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。

- 問1 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
1. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている
 2. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である
 3. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である
 4. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている
- 問2 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡
 2. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印
 3. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀
 4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符
- 問3 3世紀の日本の様子が記された中国の史書『三国志』の「魏志」倭人伝において、約30の国々をまとめ、中国の魏に使いを送ったとされる邪馬台国の女王は誰ですか。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 推古天皇
 2. 持統天皇
 3. 卑弥呼
 4. 北条政子
- 問4 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった青銅器のうち、表面に幾何学模様や当時の生活・自然の様子が描かれ、釣鐘のような独特の形状をしている道具の主な用途として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 獲物を捕らえたり身を守ったりするための狩りの道具
 2. 土を耕し田植えをするための農業用の道具
 3. 豊作などを祈るための祭りの道具
 4. 食料を保存し煮炊きをするための道具
- 問5 3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. 持統天皇
 2. 卑弥呼
 3. 北条政子
 4. 推古天皇
- 問6 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. ナウマンゾウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた
 2. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた
 3. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた
 4. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された
- 問7 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
1. 志賀島
 2. 漢委奴国王
 3. 卑弥呼
 4. 親魏倭王
- 問8 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. 「魏志」倭人伝
 2. 「後漢書」東夷伝
 3. 「宋書」倭国伝
 4. 「隋書」倭国伝
- 問9 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。
 2. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。
 3. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。
 4. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。
- 問10 福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。
 2. 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。
 3. 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。
 4. 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。
- 問11 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 弥生時代
 2. 縄文時代
 3. 古墳時代
 4. 奈良時代
- 問12 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 魏の強力な軍勢力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
 2. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
 3. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため
 4. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため
- 問13 日本の弥生時代中期には、現在の千葉県茂原市に位置する宮ノ台遺跡から出土した「宮ノ台式土器」に代表されるような地域独自の文化が見られました。この日本の弥生時代中期と同じ頃、地中海周辺を中心とする世界ではどのような歴史的な動きがありましたか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
1. エジプトで巨大なピラミッドが建設され、王の強大な権力が示されていた。
 2. 中国で殷（商）が成立し、祭祀に用いるための精巧な青銅器が作られていた。
 3. ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。
 4. メソポタミアでハンムラビ王が法典を整え、周辺地域を統一した。
- 問14 弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一つで、釣鐘（つりがね）のような独特の形をしており、主に近畿地方を中心に発見されている、農耕の祭祀（さいし）に使われたと考えられている道具の名称として適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口県公立入試 類似)
1. 銅鐸
 2. 銅鏡
 3. 銅剣
 4. 銅矛

答え合わせ・解説

問1	答え 2 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問2	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問3	答え 3 卑弥呼	3世紀の日本（倭）では、多くの小国が争っていましたが、邪馬台国の女王である卑弥呼が呪術的な力を背景にこれらをまとめ上げました。彼女は239年に中国の魏へ使者を送り、外交関係を築いたことが『魏志倭人伝』に記録されています。
問4	答え 3 豊作などを祈るための祭りの道具	銅鐸は、弥生時代に青銅鏡や青銅器などとともに大陸から伝えられた青銅器の一種です。当初は音を鳴らすための実用的な鈴としての側面もありましたが、日本で発展するにつれて大型化し、集落の共同体で豊作を祈るなどの祭祀（まつり）に使用される宝器としての役割が強まりました。
問5	答え 2 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問6	答え 4 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化し、稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問7	答え 2 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問8	答え 2 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。
問9	答え 2 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問10	答え 1 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかつき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化したしました。
問11	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭祀具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問12	答え 3 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問13	答え 3 ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。	弥生時代中期の日本は、紀元前後を中心とした時期にあたります。この時代、地中海世界では都市国家から発展したローマが周辺諸国を征服し、広大な領土を持つローマ帝国として全盛期を迎えようとしていました。一方で、選択肢にあるエジプトのピラミッド建設や殷の青銅器文化、ハンムラビ王による統一などは、いずれも日本の弥生時代よりさらに数千年から千年以上前の出来事です。
問14	答え 1 銅鐸	弥生時代には、大陸から銅とスズの合金である青銅で作られた道具が伝わりました。銅鐸はその代表例で、つりがねの形をしています。主に近畿地方で多く発見されており、豊作を祈る村の共同体の儀式などで使われたと考えられています。銅鏡は鏡、銅剣や銅矛は武器の形をした青銅器であり、これらも次第に実用具から祭祀用へと変化していきました。

- 問1 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2017年 岡山県公立入試 類似)
1. 和同開珎と高床倉庫 2. 石包丁と高床倉庫 3. 石包丁と竪穴住居 4. 銅剣・銅矛と高床倉庫
- 問2 古代の倭（日本）の王や諸国の首長が、中国の皇帝へ貢物を送った「朝貢外交」の主な目的を説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
1. 中国大陸での戦乱を鎮めるために、日本の強力な軍事力を提供して外交上の恩を売るため 2. 中国の王朝を軍事的に支配下に置き、その領土を大陸側へ広げるための足がかりにするため 3. 中国にある高度な仏教建築の技術を独占的に導入し、日本国内に巨大な寺院を建立するため 4. 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため
- 問3 兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
1. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である 2. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である 3. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である 4. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である
- 問4 出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
1. 前方後円墳 2. 竪穴住居 3. 環濠集落 4. 高床倉庫
- 問5 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 2. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符 3. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 4. 「倭王」の称号と、百濟から贈られた七支刀
- 問6 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
1. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した 2. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した 3. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた 4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した
- 問7 佐賀県の吉野ヶ里遺跡などの墳丘墓から出土する「細形銅剣」をはじめとした青銅器の性格について述べた文として、歴史的な事実と合致するものはどれですか。 (2021年 佐賀県公立入試 類似)
1. 弥生時代を通じて、一貫して実戦での殺傷能力を追求した武器であった 2. 鉄器に比べて硬度が高かったため、土木工事の道具として普及した 3. 調理や食事を円滑に進めるために開発された、一般庶民の日常生活用具であった 4. 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭祀に用いられた
- 問8 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。 2. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。 3. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。 4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。
- 問9 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
1. 埴輪 2. 銅矛 3. 銅鐸 4. 銅戈
- 問10 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)
1. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。 2. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。 3. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。 4. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。
- 問11 3世紀の中国の歴史書において、邪馬台国の女王卑弥呼が30ほどの小国を従え、倭の王として交流したことが記されている当時の中国の王朝名を答えなさい。 (2023年 山形県公立入試 類似)
1. 秦 2. 魏 3. 隋 4. 漢
- 問12 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた 2. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた 3. 稲を根元から刈り取るために用いられた 4. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
- 問13 稲作の技術が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起き、周辺のムラを従えて「クニ」をつくる者が現れた弥生時代の社会において、青銅器はどのような役割を担ったと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた 2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出される主要な品目となった 3. 呪術的な力を持つと信じられ、女性の姿をかたどった土偶とともに魔除けとして埋められた 4. 大規模な水田開発を行う際、土を掘り起こすための主要な農具として普及した

答え合わせ・解説

問1	答え 2 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問2	答え 4 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため	古代の東アジアでは、中国の皇帝を中心とした国際秩序が形成されていました。倭の王たちは、圧倒的な力を持つ中国の皇帝に貢物を送り（朝貢）、臣下としての称号を受けることで、自分が正当な支配者であることを国内外に示す材料としました。
問3	答え 3 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武器とは時代や特徴が異なります。
問4	答え 3 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問5	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問6	答え 2 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問7	答え 4 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭祀に用いられた	弥生時代の青銅器は、大陸では武器として使われていた形状を起源としています。日本国内では「祭りの道具」としての性格を強めていきました。例えば、銅剣はより薄く装飾的なものへ、銅鐸はより大型で音を響かせるものから観賞用のものへと変化しており、これらは農耕儀礼などの宗教的な場や、首長の権威を示す場において重要な役割を果たしていました。
問8	答え 1 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島的情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問9	答え 3 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格を強めていきました。
問10	答え 3 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。
問11	答え 2 魏	3世紀前半の日本（倭）の様子を伝える『魏志倭人伝』は、中国の三国時代における王朝の一つである「魏」の歴史書です。この書物には、邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かったことが詳しく記されています。選択肢にある漢は紀元前後の、隋は6世紀末からの王朝であり、時代が異なります。
問12	答え 1 稲の穂の部分摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけの一つずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問13	答え 1 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた	稲作の伝来により生産力が高まると、土地や水をめぐる対立から社会に階級が生じ、各地に「クニ」が成立しました。地域の指導者は、集団の結束を固めるための祭祀（まつり）を主導し、その際に大陸由来の希少な技術で作られた青銅器を権威の象徴として利用しました。土偶は縄文時代の特徴的な遺物であり、青銅器は農具としては脆いため実用的ではありませんでした。